「教育実習を振り返って」

[公立高等学校　英語]

3 週間という短い期間でしたが、母校には恩師の方々が多く残っていらっしゃり、大変多くの事を学ばせていただきました。最大のポイントとなる「授業」に加えて、生徒理解の大切さや担任業務、部活動、学校組織についてなど、実際の現場でしか感じることの出来ない貴重な体験をさせていただきました。ここでは、その中でも特に「授業」と「生徒理解」について、頂いたアドバイスや自分自身が感じたことのうち最も重要なものを書き留めておきたいと思います。

「授業」

《メリハリが大事》

実習前半での授業で指導教員の先生から 1 番ご指摘を受けた点です。生徒が何をすべきかが明確でなければ、何をすれば良いかわからない無駄な時間が生まれます。まずは指導者がねらいや目的を明確にし、生徒に明快な指示を出すことが必要だと実感しました。これを意識することで、英語で指示をしたとしても生徒はスムーズに動いてくれるようになりました。

《机間指導の活用》

デビュー戦の授業で最初に頂いたアドバイスです。ペアワークや音読のように生徒だけで活動している際、私は教壇で次の準備に精一杯になっていました。しかし結局のところ一生懸命説明しても上滑りで伝わっていないと感じました。ここで足りなかったのが机間指導です。生徒が活動している時はしっかり同じ目線に立って、コモンエラーや理解度を把握し、全体に共有することで、深い学びが生まれることを知りました。本来は個別指導が理想ですが 40 人クラスの授業である以上、机間指導を上手く活用して各々疑問を拾い、クラスで考えるという形で学び合いを促進する事の重要性を学ぶことができました。実際にそれを心がけることで、生徒とより一体となって授業を展開することができるようになったと感じます。

「生徒理解」

実習を通して 1 番強く感じたことは「生徒理解の大切さ」です。授業を含め、何をするに対しても根幹には生徒との信頼関係が必要不可欠でした。私は SHR と研究授業をさせていただくクラスが別々でした。SHR のクラスでは毎日朝礼、終礼、LHR、行事、掃除などで関わる機会が多く、自然と私も生徒たちもお互いに打ち解けていきましたが、授業だけの関わりだったクラスの生徒たちとは距離を縮めるのが難しく苦労しました。ある時、先生の計らいで SHR のクラスでも授業をさせていただいた際、通常の授業クラスと違って生徒の反応も良い上に、私も生徒たちと一体となって授業がしやすく、お互いに楽しく深い学びがあることがわかりました。その差は何かと考えたときに「生徒理解」だと気付き、それからは朝、昼、放課後の時間を利用して授業クラスに出向き、生徒と積極的にコミュニケーションをとることで距離も縮まり、実際に研究授業も成功させることができました。